

# おれんじニュース

No.236

2009年11月号

白鳥山～時雨岳からの遠景

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

★山行の一步は会合から★

	11月			12月		
運営委員会	10日	19:30～22:00	西諫早公民館	8日(火)	19:30～22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	6日(金)	山行時	現地にて	4日(金)	13:30～15:30	西諫早公民館
全体集会	24日(火)	19:00～22:00	西諫早公民館	22日(火)	19:00～22:00	西諫早公民館

★12/5(土) オレンジハイキングクラブ 30周年記念行事



白鳥山山頂にて 9/13



岩屋山山頂にて 9/23

あの日  
あの山



白鳥山山頂にて



ホンバラダン



岩登り カッコイイ！



陽光を浴びながら



## 11月の山行計画

部	ひまわり	技術研修部 (卒業山行兼)	山行部 (30周年記念山行)	自然保護部
月 日	6日(金)	8日(日)	13日(金)～16(月)	25日(水)
山 名 (行事)	猪見山(589m)	北九州の山 足立山(597, 8m)～ 戸ノ上山(517, 8m)	四国の山 愛媛県 石鎚山(1982m) 徳島 県剣山(1954, 7m)	黒髪山(516m)
地 図	彼杵・古枝	小倉	石鎚山・瓶が森・ 剣山・谷口	有田・蔵宿
集合出発	諫早駅 7:56	JR 諫早駅裏ロータリー 7:00	13日 JR 諫早駅 18:00	
		JR 西諫早駅前 7:10	JR 西諫早駅 18:10	JR 西諫早駅 7:30
帰着時間	諫早駅着 18:22	18:30頃	16日午前9時頃	17時頃
歩行時間		4時間30分程度	石鎚山5時間30分 剣山3時間40分	2時間30分
難易度	初心者向き	初心者向き	一般向き	初心者向き
交通手段	列車	マイクロバス	マイクロバス	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	船中2泊・旅館1泊	日帰り
温 泉	なし	有り	有り	有り
参加費	運賃実費	5,000円	20,000円	3,500円 ?
申込期限	10/29まで	満員になり次第〆切	10/20全体集会まで	11/20まで
集 約	江崎	米田	松園	水江
	往路 7:56 諫早駅発→ 8:27 千綿駅着 復路 17:41 千綿駅発→ 18:22 諫早駅着	足立山は1日登山で十分満足できるコースと変化と話題性のある山。稜線には企救(きく)自然歩道があり、戸上山(とのおえやま)への縦走路がのびている。	四国の百名山二峰に登頂します。	コース 黒髪少年自然の家＝乳待坊展望台→見返り峠→黒髪山頂往復。
感想提出	11/15(日)	11/18(水)	11/25(水)	12/8(火)



## 12月の山行計画

部	ひまわり 自然保護部合同	技術研修部	山行部
月 日	9日(水)	12日(土)～ 13日(日)	20日(日)
山 名 (行事)	小浜～唐比	津波戸山 中山仙境 一泊2日	雲仙縦走(妙見・国見・ 普賢岳) 納山登山
地 図		立石・豊後高田	島原・雲仙
集合出発	島鉄バス(県営バスタ ーミナル 8:20	JR 諫早駅裏ロータリー 6:20	JR 諫早駅裏ロータリー 7:20
	口ノ津行き	JR 西諫早駅前 6:30	J R 西諫早駅 7:30
帰着時間	諫早駅着 17:00	諫早駅 19:00 頃	17:30 頃
歩行時間	5時間程度		5時間程度
難 易 度	初心者向き	初心者向き	一般向き
交通手段	バス	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	あかね荘	日帰り
温 泉	唐比温泉	有り	温泉有り
参 加 費	運賃実費	1,500 円	3,000 円
申込期限	12/8(木)まで	宿泊予約の関係上出来る だけ早く申し込んでくだ さい	定員になり次第〆切
集 約	水江	米田	松園
備 考	昨年と反対コースにしてみ ました。	深山幽谷の味わい深い山 旅 津波戸山は、奇岩怪石の山 で、その様は名勝耶馬溪に 匹敵するほどの迫力。眺望 もみごとで、スリルもある。	今年一年を地元の山で締 めくりましょう。
感想提出	12/15(火)まで	12/22(火)まで	1/5(火)まで

## 組織部から

### オレンジハイキングクラブ30周年記念行事

開催日	2009年12月5日(土)
記念講演	14:00~16:00
会場	西諫早公民館 3F 第1講座室
講師	大野 純生 氏
演題	「66歳男性 徒歩で日本列島内陸部の縦断」
祝賀会	17:00~20:00
会場	津水公民館
連絡先	富永徳麿
会費	4,000円



準備の都合がありますので出席予定の方は**11月15日(日)**までに連絡下さい。  
なお今年の忘年会は30周年行事に集中したいと思いますので中止させていただきます。  
※11月7日(土)13:30~15:30 30周年実行委員会

## 労山新特別基金担当から

### 日本勤労者山岳連盟の遭難救済制度のご案内

今年度より「**労山新特別基金**」と名称が変更になりました。

現在加入している人は10月が切り替えとなっています。

『**労山遭対基金**』は、**労山**会員であれば、誰でも、いつでも、簡単に加入できます。**労山**会員の**共済**制度で、**営利**を目的としていませんので、加入者が増え『**基金**』が増えれば、**給付額**の**倍率**もあがります。**海外登山**、**急病**なども**給付**の対象としています。

#### <払込金と給付>

**払込金** 個人1口1,000円 10口まで任意加入できます。

団体1口2,000円 5口まで任意加入できます。

**有効期間** 1年間

**給付** <個人加入の場合>

死亡・障害に**払込金額**の**200倍**補償

救助・捜索に**払込金額**の**300倍**補償(加入初年度)

(救助・捜索給付は、加入2年目から、継続1年あたり10倍ずつ加算し、最高400倍まで補償されます。)

**新規加入金** 新規ご加入時に、500円が必要となります。

詳しくは**基金担当** 篠原まで

## 技術研修部から

11月

セルフレスキュー 11月28日(土)  
岩登り 5日(木)・22日(日)

12月

19日(土)  
10日(木)・20日(日)

## 東部労山 富永氏からの呼びかけです

祖母・傾山山群

11月1日(日)～11月3日(火) 大障子岩(1451m)一般ルート  
分校跡にテント泊

費用 10,000円位

参加希望者は 川原まで

## 県連写真展実行委員会から

3月2日(火)～7日(日)県立美術館で「私達の山の記録」をテーマに県連の写真展が開催されます。

11月2日までに展示内容を美術館に報告しなければならないので、希望者は10月20日の全体集会までに応募してください。サイズは四つ切り以上です。



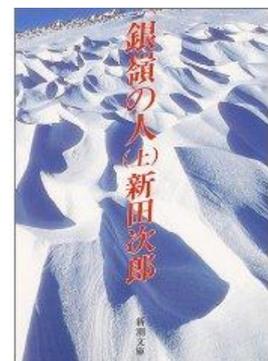
### おすすめのほん

『銀嶺の人』(上・下) 新潮社

新田次郎

本書のモデルになっているのは女性登山家として初めてヨーロッパアルプス3大北壁登頂を成し遂げた今井道子さんと、彼女と共にマッターホルンを女性だけのパーティーで初登頂した若山美子さんです。

「女医をめざす、勝気な”泣かない子”であった駒井淑子は、冬の八ヶ岳で単独行を試みて遭難しかかった時、若林美佐子と出会う。鎌倉彫の新鋭彫刻家として注目されていた美佐子は、無口ですぐに”涙ぐむ子”であった。死を覚悟した二人を事もなげに助け出した三人の男性登山家に魅入られて、彼女たちは、ついに初の女性隊によるマッターホルン北壁登攀への挑戦を試みる……。」(上巻カバー裏表紙より)





## 9月・10月の山行報告

9月12日(土)～13日(日) 雁俣山(1315m)・白鳥山(1639m)・時雨岳(1546m)

〈参加者〉 C L川原 S L佐原 ススメバチ対策 福岡  
一班 P L中須賀 S L平 福岡 樋口 山口い 中村か  
二班 P L中尾 S L本秀 林 佐原 松尾と 川原 12

名

〈行程〉

1日目 6:00 諫早駅～6:10 西諫早駅～7:00 金立～8:50 松橋～10:15  
展望所～10:20 二本杉 10:45 雁俣山登山口→休憩  
→12:00 雁俣山山頂—昼食—12:30→13:30 登山口 13:40～  
14:00 平家の里公園—見学—14:50 縦木溪流キャンプ場 泊まり

2日目

6:00 起床—朝食—7:40 キャンプ場出発～8:30 椎原越(1450m 宮崎県との県境)8:50  
白鳥山登山口→御池→10:30 白鳥山山頂—10:40→12:10 時雨岳山頂—昼食—13:00→林  
道→13:20—13:30 林道起点～15:30 雁俣の湯—16:15～16:50 御船 I C 諫早着 19:30

〈感想〉

白鳥山、数年来あこがれていた山なので、万難を排して参加することにした。

自然林の中に石灰岩カルスト地形があり、ヤマシャクヤクをはじめ貴重な動植物が生息生育し、その上落人伝説があり、平家のなにかしさんの屋敷跡までであるという山なのだ。

1日目

片栗の花で有名な雁俣山へ 山頂は北風びゅーびゅー

早朝、空模様が気になるものの幸い雨は降っていない。参加者12名で出発。

まず五家荘入り口にある二本杉から雁俣山へ。この山は、幽明界を異にするかつての山友達と2度ほど訪れた山。ブナの巨木や美しいヒメシヤラの木々など、一木一草がとても懐かしい。

5月の連休の頃、ブナの林床にカタクリの花が咲くことで知られているが、今回はカタクリの花の立て札を見ながら(この辺りにピンクの花をつけるんだァ)と想像しながら歩くことに。往復2時間半程度のハイキングコース。途中、京丈山への縦走路があり、次回は是非このコースをカタクリの花の季節に・・・と心に。



頂上は北側が開けて熊本平野や阿蘇五岳が望めるはずだが、生憎の天気で展望は全く利かない。早々に昼食を摂り、北風に追われるように引き返す。(ぶるぶる)

出発時に少々雨がぱらついたが、その後は幸い雨具を着用しないで済んだ。ところがバスまで後一步というところで雨に見舞われてしまう。(ざざぶり)

ようやく峠まで辿り着いた時、Nさんに「ツチアケビがあったけど見て来た？」と声をかけられ、慌てて雨の中を引き返し、土色のアケビに

似た一風変わった実をカメラに納める。(アケビの実よりソーセイジに見えました)

途中「平家の里」という立派な施設があり落人の歴史や能舞台などを駆け足で鑑賞後、縦木溪流キャンプ場へ。技術研修部部長お勧めの、設備の整った快適なバンガローで早めの夕食の準備。キャンプ慣れしたベテラン女性陣の手際のいいことと云ったら、私はうろうろ役立たず、最後は皆さんの後ろで見学させて頂いた。

その日の宴会はまだ日があるうちから始まり、例のごとく大いに盛り上がった。足元を流れるせせらぎの音に誘われて夢の世界へ。(落人の夢でも・・・)

## 2日目

いよいよ白鳥山～時雨岳へ。

巨樹の風倒木、朽ちかけた切り株などみごとな緑の苔で覆われている

「白鳥山は地形図上、山名記載がない」と聞いていたが、確かに「時雨岳」1546メートルと大きく記載されているのに、時雨岳より標高が高い白鳥山は1638、8メートルと書かれているだけで山名の記載がない。時雨岳より標高が高いにもかかわらずである。(実際に登って見ると理由がわかるかも)

出発して1時間足らずで椎原越に到着。ここは熊本県五家荘と宮崎県椎原村との県境だ。これより宮崎県椎葉村という青のプレート、また「九州中央山地森林生物遺伝資源保存林」という舌を噛みそうな林野庁の大きなプレートも立っていた。保存された理由を要約すると、

1. 太平洋型ブナ林があり、一部に湿地性タイプのブナ林がみられる。
2. 希少な野生動植物が生息生育する。
3. 石灰岩地において他の地域に見られない特異な植物が生育している等の優良で特異な自然。



とのことだ。これを読んでますます期待が高まり、鬱蒼とした森の中に一步踏み入れた。(ワクワク)

ブナを中心に、カエデ、ヒメシャラ等の落葉広葉樹が巨樹となり空を突き上げている。何よりも驚いたのは巨樹や林床一面を覆っている青々とした緑の苔達だ。進んでも進んでも苔、苔、苔、石灰岩の白く輝く岩を覆い、巨樹の風倒木、朽ちかけた切り株も見事なまでに緑の衣で覆っている。今年の九州地方は極端に雨が少なく、8月・9月とからから天気が続いたにもかかわらず青々と美しく苔達が繁茂していた。(まるで屋久島だ!)

また、この苔と同様に私の目を惹いたのが、立ち枯れし、幹だけとなってしまったブナの巨樹が、ギボウ



シヤカエデ、茸、等多くの植物たちを着生させている。このような姿が森のあちこちで見られることに驚いたり、感心したり、枯死しても倒れず、森のために踏ん張り続けている姿はとても風格があり崇高に思えた。巨樹を神木としてあがめる風習があるが、この森を歩いてみると納得の感がある。

いつの間にか、この山と記さないでこの森、と書いてしまったが、白鳥山山頂付近は、湿地である御池を中心にやや小振りな樹木が立ち並ぶ緩やかな丘陵状になっており、山頂一带は展望が利かないが石灰岩ドリネ地帯で、明るく静かな森のたたずまい。(まさに桃源郷)

さて、独断と偏見で、地形図に山名がないのは、山頂が山頂らしい姿をしていないので、村人が山と位置づけしなかったか、それとも落人が隠れ住んでいるので村人はあえて山名を付けなかったか。このいずれかであると思われるが・・・(ミステリーですね)

御池の近くに淡いピンクの「ミカエリソウ」の群落が盛りと咲き、人目を惹くヤマシャクヤクの実が不思議な姿で立ち枯れている。花の季節にはさぞやすばらしい光景に。

ドリネの一角に「平重盛の三男平清経住居跡」という標識が立っていて、皆の関心が同じ名字の平さんに集まり、標識と一緒に写真に収まって貰った。

次なる時雨岳への道は緩やかな下り。アケボノソウや、アキチョウジ、それにブナの林床だけに咲く「ヘイケモリアザミ(平家杜薊)」という珍しい花などが咲く楽しい縦走路を1時間足らず歩き、12人そろって山頂に立つことができた。

時雨岳から林道までの下りは道がはっきりせず、技術研修部部長の経験と勘頼みの藪こぎであったが、数十分で林道に出ることができた。万歳！万歳！

本当に期待以上の山旅でした。皆さんありがとう。(樋口千代 記)

## 9月23日(水) 岩屋山(475m)

〈参加者〉 山下 中尾 佐藤 佐原 江崎 水江 中村か 松園 山口い 松尾と  
福岡 金丸な 岩永さ 高橋 酒井 岩永の 中野(近藤 山下 岩永  
間垣 ) 会員17名 外4名

〈行程〉 JR 諫早駅 7:57～ 長崎駅着 8:31 長崎駅前からバス 8:50～上浦着 9:20  
出発 9:35→山頂到着 11:50 (昼食、休憩) 山頂出発 13:00→  
アリーナカブトガニ着 14:45～クールダウン後解散 15:00

〈感想〉

前日からの雨が少し残っていたものの汽車に乗る頃にはすこしずつ明るくなり、カンカン照りよりも歩きやすそうな空模様になってきました。

岩屋山には色々な登山コースがありますが、今回は長崎の近藤さんのガイドで、上浦から舞岳方向へ、途中から岩屋山へと向かう九州自然歩道を登り、油木へ下るコースを選ばれていました。

雑木林が続き、軟らかい腐葉土に覆われた道は歩きやすく、皆さんの楽しそうな話し声も途切れることなく続きました。頂上に着くとこれまでの樹林とは一変して眼下に長崎市内の密集した住宅街が一望の下に広がります。

「これぞ長崎の山」という感じです。出発前、休憩時間、昼食後に地図の勉強をしたり、歩



行中も笑い声や話し声の途切れることのない余裕のある山行でした。一つ残念なことはダンギクに出会えなかったことでした。次の楽しみにしましょう。

(中野美津子 記)

## 9月27日(日) 白岳(372m) 不老山(288m)

<参加者> 中須賀(C L)、福岡(S L)

1班: 平、松園、川内、松尾と、国分、川原、中須賀

2班: 中尾、坂本、本秀、高森、福岡 会員外4名(家族) 計16名

<行程>

6:30 西諫早発→8:00 佐世保→9:00 白岳公園→9:20 白岳頂上  
→10:15 白岳発→11:00 不老山展望所→12:30 鷹島大橋(昼食) →  
14:00 モンゴル村(入浴) →15:30 鷹島発→18:30 諫早着

<感想>

久しぶりの山行参加、それなのに感想を・・・ということで緊張(?) 半分で初参加の夫と集合場所へ。

晴天続きだったので、下り坂という天気予報が気になりつつ、参加者も入れ替わりがありながら16名でスタート。

高速道路で佐世保市街を抜け、9:00 白岳公園センター出発、100段以上もある階段を登り白岳神社へ、そこで「岩場コース」と「ゆったりコース」に分かれた。

ゆったりコースの中尾氏は、スズメバチ予防のスプレー缶を手に、草を払いながら20分で頂上へ。展望は悪く残念!

ほぼ同時に着いた岩場コースの人達から、途中の展望所からの眺めが良かったと聞き、頂上から100m程下の岩場に向かった。岩のそこそこに段菊が咲いていて、目の前が開け、汗ばんだ身体に風が心地よかった。

10:15 白岳公園を出発、10:45 不老山の八天宮に着いた。11:00 展望所へ、松尾氏の詳しい説明で目の前に広がる色々な島の名前などを聞き、正面にはこれから行く鷹島がありました。登山はここで終わり。

第2の目的である鷹島大橋へ、好天のせいか、びっくりするくらいのバイクの人達がいた。橋を渡ったところで昼食、ここで男性群は少し早めのアルコールが始まったようです。

歴史資料館、モンゴル村へと進み、モンゴル村温泉で汗を流してスッキリ。

予定より1時間半早く全行程が終了したので、東彼杵の道の駅では、ゆっくりとテレビで相撲観戦までして帰途へ。

登山としては、もう少し歩きたいという思いもありましたが、心配し

ていた雨にもならず、時にはこういう山行も良いものだと思います。



車内での、楽しい笑いいっぱいのおしゃべり会に夫もニコニコでした。(高森 記)

## 岩登(ロッククライミング)感想

10月4日(日曜日)

場所：福岡県筑前前原野北(のぎた)海岸

(参加者)川原 國分 富永(東部山岳会) 森田 松園 山下 高橋(外) 中島(外)

(行程) 西諫早駅7:00出発 佐賀大和ICパーキング着8:10福岡組と合流

第一の岩場に取り付きはじめ10:05 西諫早駅着18:00

岩登りは今回で2回目。レベルの違うメンバーを指導する川原さんの苦勞がしのばれるが、海岸の岩場ってどんどころだろうと興味もあり参加してみた。

朝7時に、西諫早駅に集まった時は秋冷えの感じだったが野北に着くと暑い一日になった。駐車場をさがしアスファルトの壊れた凹凸のひどい所に車をおさめた。いざ、海岸へ。海岸への下り口は川原さん、記憶してないとのこと。そこへ、(サンサン山の会)の稲永さんが12, 3名のメンバーを連れて駐車場に来られたので同行させていただいた。このルートは以後われわれにも覚えておくように言われた。はたして、この次行った時おぼえているだろうか?

とにかく海岸へは、細いトラロープを頼りに一気に下る。降りついたところは荒波の寄せる玄界灘だった。ハングル文字の漂流物をながめて第一の岩場に取り付いたのは10時頃だった。川原さんがまずロープを持って登っていかれる。川原さんのリードの下、一番手に森田さんが登った。なかなかの度胸である。はじめてとは思えない足運び。なんだかスマート。後に続く山下は相変わらずコンパスの短さで苦勞する。川原さんの声にささえられなんとか登れた時は達成感にうっとりする。

(笑)しかし落ち着く暇も場所もなく稲永さんの指導の下、反対側の岩場に懸垂下降する。

(苦笑)新人の森田さんも松園さんもどんどん登って降りる。落ち着いた足運びだ。多分皆もそうだと思うのだが、川原さんにヴィレーとってもらうととても安心なのだ。(川原さんは大変なのだが、、)

いくつかの岩場を超えたあたりでランチタイム。荒波でまるくなった石ころを眺めながら大岩を登る練習をしたりして楽しく過ごした。

帰りは少しヤブをこいで、岸にそってある道路までたどり着いた。(フーッ!)

駐車場には(サンサン山の会)の稲永さんのパーティーももどっておられた。凹凸のひどい所を森田さんの運転で上手に出て三瀬でとうふコロックを買って家路に着いた。充実した一日だった。そして、最近ハイキングでは得られないダイエット効果を実感してる山下なのです。(そう見えないって?いえ、体重減ってます!!)

(山下ちず子 記)



## 10月9日(金) 大野岳(420m)大平岳(330m)

〈参加者〉江崎・佐原・林田・兵庫・山口イ・佐藤・中尾・平・坂本・下釜・酒井・高橋・田村・森・小山・本秀・(森す) 会員16名 外1名

〈行程〉(往路)西諫早駅前広場 8:00～諫早IC～長崎自動車道～武雄JCT～佐世保・三川内IC～国道202～二里大橋～白山神社出発 10:05→大野岳山頂 11:10—下山バスで移動～登山口→大平山山頂 12:30—昼食—下山開始 13:20→登山口～大川内鍋島窯跡散策～嬉野温泉(入浴)～諫早着 17:20

### 〈感想〉

天気もよく、参加者17名で元気に出発。約2時間かけて大野岳の入口に到着。

準備体操をし、歩き始めて約30分程して大野神社があり皆参拝をする。少し歩いた所に「しあわせ公園」があり10分程休憩する。そばにキュウイ・柿・栗などいろいろ秋の果物が所狭しと実っており皆感激しながら横を通っていた。

11時10分大野岳に到着。頂上一帯に紫のシャジン・ナンバンギセル・狂い咲きのツツジ・名前はわからないが、赤い実をつけた木など、秋がいっぱいであった。

早めに下山してもう一つの山、大平山の方へ向かった 40分



大川内山散策

で山頂、ここで昼食をとる。

1時20分位に下山をはじめ帰路に着く。車中から真っ赤なサルビアの花を見つけ、皆歓声をあげていた。途中、国の史跡に指定されている「大川内鍋島窯跡」を散策。その後、嬉野の風呂に浸かり、17時20分位に諫早に着いた。(坂本三枝子 記)



大野岳山頂にて



棚田の風景

# 秋

# 秋



ホツツジ



バライナゴ



ヘイケモリアザミ



